

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko 国際文化研究専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

## この号の内容

## 1 イタリア 各紙ニュースヘッドラインは、やはり Covid.

## 2 EU 支部だより

## イタリア 各紙ニュースヘッドラインは、やはり Covid.

11 月後半、イタリアのニュースヘッドラインは、やはり Covid。以前より検討されていたスーパーグリーンパスの導入法案が正式に可決され、12 月 6 日から 1 月 15 日まで実施されます。政府は「ビジネスを継続するために必要なルールであり、ワクチン接種を受けた人は新システムにより今年は「普通の」クリスマスを楽しむことができる」「ワクチンを接種した人に報いるもの」と語っています。

現在のグリーンパスは、ワクチンを接種した人、過去 6 ヶ月以内に Covid から治癒した人、及び過去 48 時間 (抗原) または 72 時間 (PCR) 以内の検査で陰性と判定された人に発行されていますが、新システムの元では、検査結果が陰性の場合に発行されるパスは、職場、公共交通機関、その他必要と思われる場所への入場にのみ有効となります。つまり、検査の陰性証明のみでは文化施設やレジャー施設に入ることができなくなります (ジム、ナイトクラブ、スキーリフト、スポーツスタジアム、屋内のバーやレストランなどを含む)。ただ検査有効期間の短縮 (48→24、72→48) については見送られました。

その他、ワクチン接種義務対象者の拡大や (下記詳細)、ミラノを含む一部の都市での屋外でのマスク着用義務など、様々な手段を使ってクリスマス、そして経済を守るといった流れです。これらの流れについてデモを続けているワクチン反対派の人たちはどのように反応するのでしょうか？

そんな中、世界を震撼させたのが南アフリカで初めて確認されたという新株オミクロン。感染力や毒性に関してはなお多くが謎に包まれたままですが、南アフリカではデルタ株から置き換わって広がっていることから、デルタ株よりも感染力が強い可能性が指摘されています。先んじたイギリスやイスラエルに続き、イタリアでも南アフリカ、ボツワナ、ジンバブエ、モザンビーク、ナミビア、スワジランドとの渡航が禁止されました。

## 追記 (11 月 29 日): 外務省からの政令まとめ

- ・12 月 15 日から医療関係者のワクチン追加接種義務化。(第 1 条)
  - ・12 月 15 日から学校、防衛、救急、警察関係者のワクチン追加接種義務化。(第 2 条)
  - ・ワクチン接種の場合の COVID-19 グリーン証明書の有効期限を 12 ヶ月から 9 ヶ月に変更。追加接種を行った場合は、追加接種の日付から 9 ヶ月有効。同措置は 12 月 15 日から発効。(第 3 条)
  - ・COVID-19 グリーン証明書義務化の拡大: ホテル等宿泊施設内のレストラン、ジム・プール等の更衣室やシャワー、州間の電車、州及び地域 (コムーネ) の公共交通機関でも COVID-19 グリーン証明書を義務化。例外は 12 歳未満の子供、およびワクチン・キャンペーンの対象となっていない者。なお、州及び地域 (コムーネ) の公共交通機関では、乗客の COVID-19 グリーン証明書の所持確認はランダムに行われる。同措置は 12 月 6 日から発効。(第 4 条)
  - ・ワクチン接種及び治癒の COVID-19 グリーン証明書の使用: イエローゾーンとオレンジゾーンでは、ワクチン接種証明及び治癒証明の COVID-19 グリーン証明書を所持している者のみに、ホワイトゾーンの規律を守りながら、現行の規則に従って制限又は停止されたサービスの利用、活動の実施、移動が許可される。同措置は 11 月 29 日から発効。(第 5 条)
  - ・本緊急政令は官報掲載の翌日から発効。(第 10 条) (当館注: 本緊急政令の官報掲載日は、26 日)
- (ItariAmo NEWS & BUSINESS Week of 11 月 21 日)

## EU 支部だより -義務化反対のデモ-

「グリーンパス」とは、日本で言うワクチンパスポートのことです。イタリア政府が発行するワクチン接種状況などを記録したデジタル証明書です。

グリーンパスは紙版とアプリ版の 2 つがあり、スーパーマーケットや商店など買い物で使う場所以外の屋内と、屋外でも人が集まる場所では必ず提示が必要になりました。

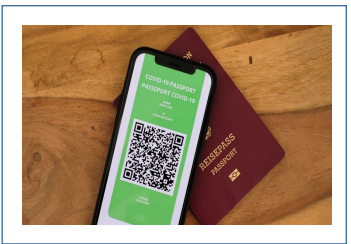
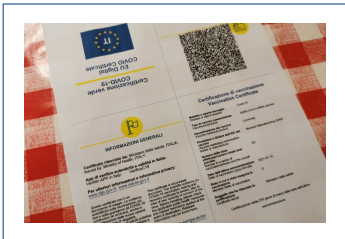
その上、10 月 15 日からは全労働者のグリーンパス保持が義務化。これはヨーロッパ内でも初めての厳しい措置です。グリーンパスを持っていない労働者は、解雇はされませんが休職扱い (職場に入ることができません) となりその間の給料は支払われません。グリーンパスを保持せずに働いた場合、最高 1500 ユーロの罰金刑の対象に。労働者だけではなく、グリーンパスの確認義務がある雇用主にも最高 1000 ユーロの罰金が科せられます。そのためか、ローマ、ミラノ、トリエステなどの都市で、「No Green Pass (ノー・グリーンパス)」の義務化反対のデモが行われました。ポーロニャのように、毎週土曜日に定期的にデモが行われている都市もあります。

私の周りのイタリア人たちに意見を聞いてみました。

- ・ワクチン接種率がさらに向上するだろう。接客業など安心して仕事ができるのはうれしい。
- ・安全な社会生活のために必要だと決められた事なら従う。
- ・ここまで強制するのは、やり過ぎではないか。

賛否両論あるようですが、今後、「グリーンパスがないと仕事ができない」となると、仕方なくワクチン接種に踏み切る人は増えるでしょう。日本のワクチンパスポート導入がうまくいくことを願います。(松原)

- ・スーパーグリーンパス
- ・クリスマスと経済を守る
- ・新株オミクロン



- ・提示が必要
- ・労働者への義務化
- ・義務化反対のデモ

